

だん／＼と農民も苦しくなつて来ま  
した。

わかれが二人で学校を休まうけれど  
行かないやうに存つたのも、地主が  
農民を困らせやうと思つて、立禁を  
したからで、今でも、夜かみひだ  
に立禁に来るので、農民はやすらが  
に眼もすることも出来ませぬ。

のうまんの田んぼはたくさんの立  
禁をじりぬけておます。又母たちがど  
れだけゆらけても、これでは食つて  
行くことが出来ぬ。自分たちが  
いんぼに、学校に行したくても行か  
ずことが出来ぬ。

だから、自分たちは学校へ行きな  
かつたり、今のうちに学校を休ませ  
立禁をぬいてくれらまや組合の農民  
小学校に通ふことだ。  
この農民小学校は、立禁をぬかせ  
るための、のうまんの子供の学校だ  
から、自分たちはよろこんで学校へ

行かぬけたりない、任人とうによい  
学校である。  
わかれがおやのハをやすりやりにしや  
うと思つたら、おやのかけりとなつ  
て、地主とた、か小の、このかく  
こをもつて、一ハにべんきよしや  
う、い、て地主とた、かつて立禁を  
ぬかせやう。

一九三三、五一五、発行  
発行所、清口、心と  
全日本農民組合、日高地区本員会